

# 『貫く心』の大切さ

東京都  
小台宮城剣友会  
中学2年 江田 滯 央

2年前の11月。私は絶望のどん底に落ちていた。

当時私は、小学6年生で中学受験を控えていた。私にはどうしても行きたい私立の女子校があったからだ。その女子校は、私が将来目指したい医薬系の学部で、多くの卒業生が進学しており、さらに私が5歳から習っていた「剣道」の部活があったことが大きな理由だ。しかも、その剣道部は、部員も稽古日も多く、みんな一生懸命取り組んでいるので、中高でも文武両道で頑張りたいと思っていた私にピッタリだと考えたからだ。なので、私はその学校に通って勉強と剣道を両立させることが夢となった。

その夢を叶えるために、小学3年生から塾に通い始めた。小学3、4年生の時は、剣友会の稽古に全て参加しながら、稽古が休みの日は塾で受験勉強に精を出していた。小学5年生では、塾と稽古の日が重なっていたので、塾の前半の授業だけ受け、稽古に行くために早退し、稽古に参加していた。そして後半の授業の内容はテキストを参考に家で1人で必死に頑張った。まさにハードスケジュールの毎日だった。

小学5年生の時、こんなにも剣道の稽古をしていたのには理由があった。私が目指していた女子校は私にとってレベルの高い学校であったため、小学6年生から剣友会を休会し、中学受験に専念する必要があると思ったからだ。だから、小学5年生で剣道で結果を残したいと考えた。剣友会の先生方も、私の思いを理解してもらい、厳しくも効果的な稽古を沢山つけていただいた。そうして、受験勉強と剣道の両立を頑張った結果、個人では区の大会で連覇できたり、団体では東京都道場連盟の女子団体の大会で優勝することもできた。この1年間、体力的にも精神的にもかなり辛い1年だった。だが、自分の思いを貫いた1年でもあった。この経験は私にとって貴重なものとなり、これから先、苦しく辛い時も自分の思いを貫く自信を身につけることができた。

そして小学6年生となり、7年間続けていた剣道を休会し、中学受験の勉強に専念した。勉強の時間を増やせたが、勉強のレベルが上がった分、成績は伸び悩んだ。だが、このままの成績を維持するために一生懸命勉強した。それでも、受験勉強は体力も大切なので、時間がある時は、夜に家の周りを走ったり、竹刀で素振りをしたりもした。

そしてその年の11月。私は絶望のどん底に落ちていた。私が目指している女子校の最後の模試で、合格判定率20パーセントという悲惨な結果を出してしまったからだ。そこまで低い数値を出したのは初めてだった。一番大事な最後の模試で出ってしまった結果は私に大きな不安を与えた。私は散々泣いた。その後、父に連れられて竹刀を振りに行った。そして竹刀を振りながら、「貫く心を持ちなさい」という両親の教えと、小学5年生の時に受験勉強と剣道の両立を貫いたことを思い出した。諦めずに最後まで思いを貫きたいという強い感情が湧いてきた。その日から、気持ちを切り替えて、さらに勉強に励むようになった。

そして2月2日。私の第1志望校の受験日。私は最後まで諦めず、私の全ての力を出し切った。結果は、合格だった。今度は嬉しくて沢山泣いた。

剣道を通じて学んだこと、それは、どんな困難に出会ったとしても、諦めず、最後まで自分の思いを貫き通すこと。なので、これからもこの心を大切にしていきたい。この心を教えてくれた剣道に本当に感謝したい。